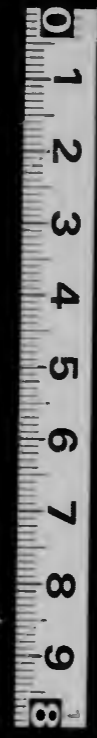


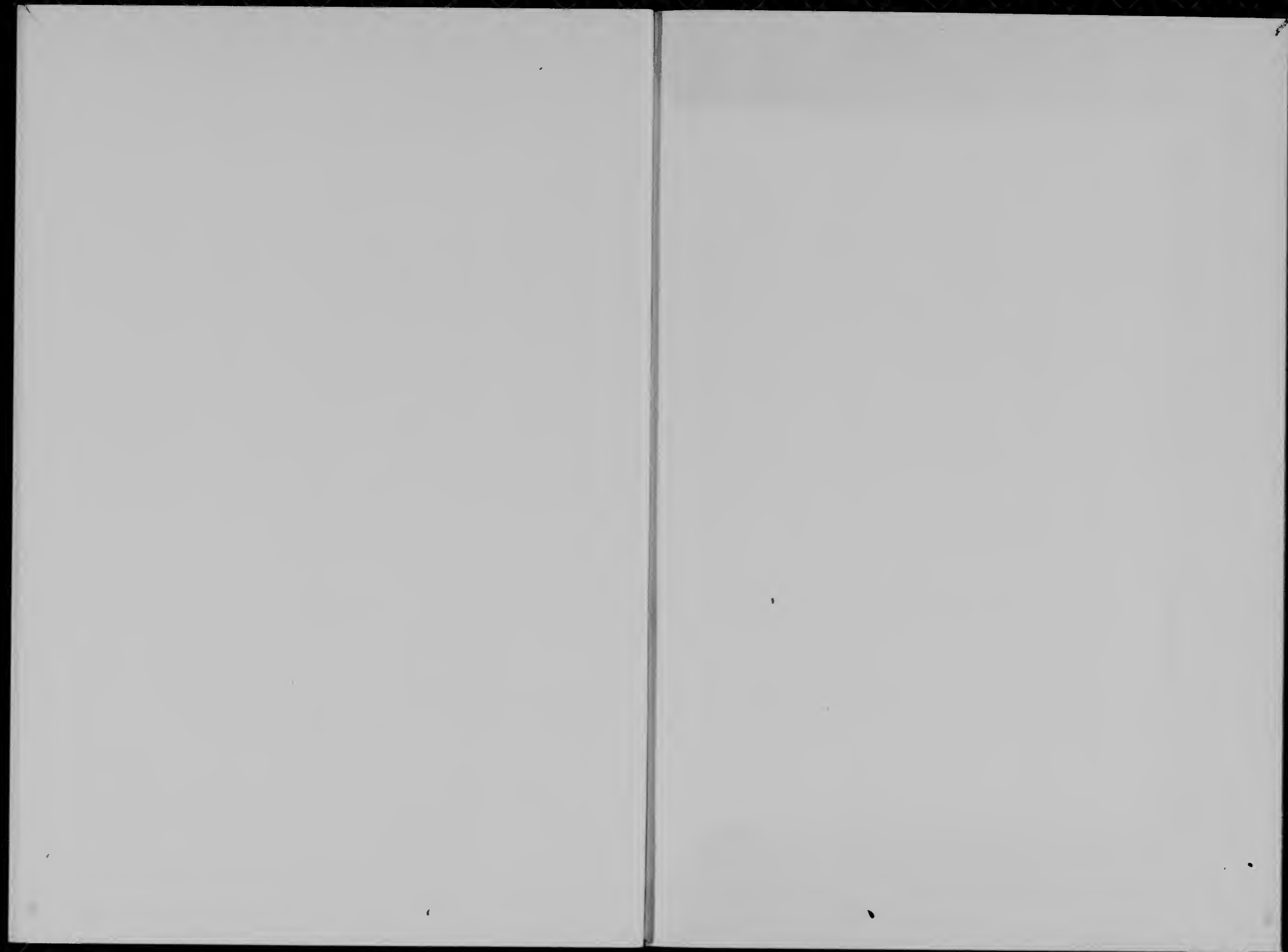
安永
西丸新清書卷番

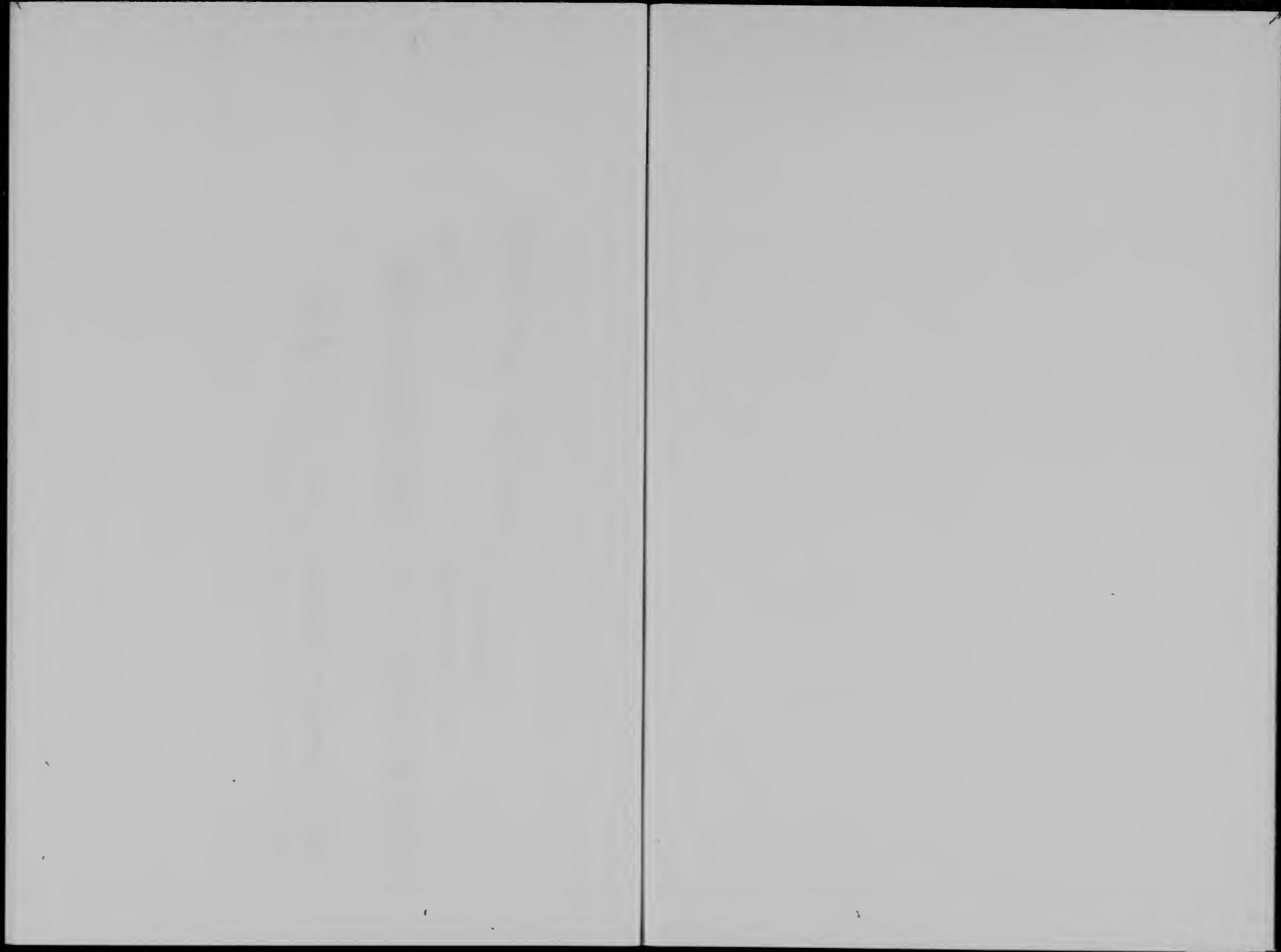
全

庫文内内
和書類
三二五九
三九二
一五二
一五
架冊號類

内閣文庫
番號和 32509
冊數 391
函號 152 121







宝曆十二年十二月十日

川井七之助久松志子

西元

新井藩御前之御組

新井藩芝小巻御組

又右儀

川井七十郎周久

明和三年

十二月廿七日葬入高力式部左衛門

天明二年十二月十日死七十八歳

宝曆十二年十二月十六日

西元

新津藩芝山宗隆組

公名 坪内云希(定)定船

坪内千太郎(定)定船

新津藩久松忠次組

明和元_申年四月廿六日死四十七歳

宝曆十二年十二月十日

西元

新洲番芝山小笠原組

中川教馬右衛門

新洲番之松次郎組

言若 中川教馬忠要

内子後

後市助

宝曆十二年十二月廿七日拜入松平後九郎

支配

明和四年四月十二日奉安大久保

豊後守組小入

宝曆十二年十二月十日

西元

新津藩芝山小笠原組

四日後 石津彦十郎忠盈

乙津右之衛門武吉子

新津藩建初四通組

明和八年九月十三日御裏沙門番頭

安永二年十二月廿三日死六十五歳

宝曆十二年十二月十日

西元

新田番芝山小次郎組

三百年
四百年

本多頼母政原

本多権左衛門政親

新田直建

明和三年二月十八日拜入役樂音在在支配

明和四年二月十日死六十六歳

宝曆十二年十二月十日

西九

新津藩芝山公孫傳祖

三言後

遠山勘兵衛宗徳

芝山三節藩系古嫡孫兼祖

芝山助三節系孫惣孫

新津藩建於門也祖

明和元^申年三月廿六日の沙院の

封多不列して時後ニと給事

明和七^宗年十月十四日の沙院に

封多に加る川て時後ニと給事

安永元^辰年二月廿九日の沙院の

封多不連りて時後ニと給事

安永五^申年五月廿九日死年八歳

宝曆十二年十二月十日

西元

新津藩芝山宗清組

二言信

大橋与兵衛宗清親英

大橋傳八命親定書字

新津藩沼井小次郎組

宝曆十二年十二月廿九日西元新津藩組既

安永元年二月廿九日下谷家信

八郎目是江火災ありて敷火あり

うゝ

安永八年四月十六日流山寺より

中山御解由支配りあり

天明元年四月廿六日西元新津組新

河邊一組番組頭の系

天明六年十月五日御台九(百連)の作と系

天明七年七月廿六日沙船

同年十月十八日布衣署と系

寛政八年二月廿四日老祥時後

と系と系合列す

同年二月晦日死八十三歳

宝暦十二年十二月十日

兎

新田番芝小次郎組

井戸忠登(光弘)

井戸佐衛門英弘(魚尾) 新田番酒井小次郎組

明和二年十月廿六日大御沙院の射子に列して時後と系

安永三年十月十三日大御沙院の射子に加えて時後と系

安永六年七月十九日西丸切子御門番三郎

天明二年六月七日死六十五歳

宝曆十二年十二月十日

栗

新津藩芝山小笠原組

八百石

松平越三郎親貞

松平信之而親次惣願

新津藩酒井小次組

安永七_戌年九月十二日死六十歳

宝曆十二年十一月十日

兎

新井清芝小笠原組

百子依

能勢平右衛門嘉明

能勢源三助松尾魚屋

新井安酒井小年次組

安永八年四月十六日
組新井安松平大膳亮

宝曆十二年十二月十五日

西元

新田清芝山小次郎組

夏彦

館野忠四郎勝就

館野忠四郎勝就

新田清芝山小次郎組

安永八年四月十六日
組 新田清芝山小次郎組

宝曆十二年十二月十日

西元

根平信藏重成表子

新津家海野心持

新津藩芝山少将组

百子信各

根平大八而成負

安永八年四月十六日刻新津家仙石次郎组

宝曆十二年十二月十日

西元

新井藩芝山小笠原組

六右衛門 石原左衛門政傳

石原左衛門政敏

新井藩馬組

明和四年二月廿日大御所の
御意に列して時後ニと結ぶ

明和五年二月十日大御所の
御意に列して時後ニと結ぶ

安永六年十月廿日西郷の山屋
あゝ大御所の御意に列して
時後ニと結ぶ

安永八年四月十六日刻
組 新津浦松平大膳亮

宝曆十三^未年四月十八日

兎

新津浦芝山小次郎組

天野平十郎改係惣願

大津敷上田徳登守組

三言後 天野金三郎改係

支配 明和七^寅年^丑六月廿八日
入妻本平四郎

安永元^辰年正月十八日
大津敷編系
紀伊守組入

宝曆十三_未年四月十八日

西丸

新津藩芝山小藩組

河内守常為記書子

大津藩后渡路守組

言俵 河内久又常季

後又百七書

明和_{乙子}年十月四日跡目又百七十石

是迄の二百俵ハ云々一書

安永_{乙申}年九月晦日祥入御津式納支配

同年十月廿又百九十九石

宝曆十三^未年四月十八日

兎

新津藩芝山小松藩組

百俵言 野田源吉庶政満

野田三夏改式惣願

小十人羽衣米馬組

同日替丸うち百三十二俵と呈し
作と家白

明和元^申年三月廿六日大御沙渡の
封に候し時後と候

安永八^亥年四月十六日^判新津藩源田源吉組

宝曆十二年四月十八日

兎

新刊番芝山小巻清組

二言後 山本興右衛門政博

山本武衛門政長書子

小十人荒井十美組

明和六^五年十月朔日大の沙流の
村多不^レ列^レの時後ニ^レ終^レり
明和七^六年十月十四日大の沙流の
村多不^レ候^レの時後ニ^レ終^レり
安永二^一年三月十八日大の沙流乃
村多不^レ列^レの時後ニ^レ終^レり
安永六^五年十月廿六日西城の山里ニ

大の涉境の対馬不列之時後三と
法家

安永八年四月十六日組新涉境支駒根此後書
組

宝曆十三未年四月十八日

兎

新涉境芝小巻場組

二言依 矢部源左衛門定衡

矢部源左衛門定衡

小十人兼系長巻場組

同日替れらるゝ又十俵と是一より
作二と云ふ

安永三年五月冒禱入長岡越中守支配

安永四年十二月十二日致仕

安永五年十二月十二日髪を剃りて

宜山堂云

天明二年四月廿六日死六十四歳

宝曆十三年四月十八日

兎

新津藩芝山小笠原組

百平右 腰刀拵付の巻通

後於伊備門云馬三男也

小十人長谷川平次組

同日勢のうち又十俵と是し

作あり

安永八年四月十六日 新津藩芝山小笠原組

宝曆十二年四月十八日

兎

新洲藩芝山小笠原組

内田九士原公元惣領

小十人総惣助士節組

言後 内田大権門公慧

同日勢流うち又十後と足し
仰之る事

安永八年四月十二日割新洲藩松平大膳亮
組

明和三年十二月廿七日

兎

新井善芝山小笠原祖

各子名

服河新右衛門盛篤

服河新右衛門盛篤

大井善三右衛門守祖

安永六年正月晦日死四十九歳

明和三年十二月廿七日

栗

新井藩芝山公清組

三喜 赤井屋春彦(時有)

赤井屋春彦(時有)

大井屋宗倉丹後守組

同日暫れうち又十俵と足し
作らざる

明和八年六月九日死

明和六年四月二日

兎

新洲青芝山小笠原組

三言後 股部友三郎保脩

後部守衛 謀教熱願

大所長三白浪路守組

安永六年六月父方の従弟松田
伊藏涉乱弾の事有て獄屋に
くつり六月又日涉系不出る事と
止り是十月廿四日伊藏を爲に
ちりあはれ元のおとく涉系不出る事
を止り是十月八日兎さき

安永八年四月十六日新洲青芝山小笠原組

明和六^五年四月二日

富永十彦宛の明和六

西永十彦宛の明和六

兎
新津藩芝山小笠原組 三彦 富永十彦本包

後改佐佐木

同日暫れうち又十彦と足 一と
作何と

安永六年十月廿六日西永の山屋
あゝ大の涉渡れ射子小列一と
時後ニと足と

安永七年十月十二日山屋あゝ
大の涉渡れ射子に加へて時後ニ

之終子
安永八亥年四月十六日割新津藩天野河波守
組

四月二十日不出使

明和六丑年四月六日

版高市市流統忍辰

西丸

新津藩芝山小治流組

本所表本堂伊豆吉組

二百俵 版高市流統

安永七戌年三月十三日西丸の山里小て

大的津流の村々小列して阿波ニ送り

安永八亥年四月十六日割新津藩仙石次流組

安永^申年十月各

酉

新津書牧野式部組

淡羽門后助幸亮嫡孫兼祖

大津書高木主水三郎

三信 淡羽斧三郎幸亮

安永^酉年八月十六日禱入戸川山城守支配

天明三年十月十六日死三十二歳

安永六年十二月三日

栗

新津藩牧野式部組

大久保彦安忠為彦子

西丸沖知戸

三言若 大久保松茂忠候

門下奉儀

後四郎彦

安永八年四月十六日 組新津藩及坂田能登守

安永七^戌年五月廿九日

西九

新津署牧野式部組

大谷藩常定則忠子

大津家小治後中守組

言奉後 大谷市平定門

安永八^亥年四月十六日^刻新津署天野阿波^組

安永七^戌年三月廿九日

要

新津藩牧野式部組

長谷川宗希忠貞

長谷川宗希忠貞兼組

大津藩名田信忠守組

安永八^亥年四月十六日^刻新津藩名田信忠守組



